魔法の言葉　プロジェクト 活動報告書

報告者氏名：　平木　智子　　所属：　北九州市立門司総合特別支援学校　　記録日：2018 年　2月　22日

キーワード：　読み書き、構音指導、ヴィジョントレーニング、コミュニケーション指導、想起力

【対象児の情報】

・学年

小学部4年生　男児

・障害名

知的障害、肢体不自由、ダウン症、重度重複障害、注意欠陥多動性障害（ADHD）

・障害と困難の内容

一つのことに集中することが難しく、意識が他に移りやすく、多動である。また、斜視と遠視性乱視のため、見る力が弱い。内言語は多いと思われるが、想起することが難しく、自分は知っているのに伝えられないもどかしさがある。教師からの質問に答えたいと思っているが、聞かれている内容を理解することができない。

【活動目的】

・当初のねらい

①絵や字の違いに気づくために見分ける力をつける

・友達が提示した絵カードの違いが分かるようになりたい、絵が描きたい、話して伝わらない時は書いて伝えたいという本児の強い願いを叶えるために、位置の理解や見分けることができることを目標にした。

②語彙を増やし、表出したい言葉や出来事を振り返るなどの想起力を高める

・本児の「もっと伝えたい、みんなと話したい」という願いを叶えるため、語彙を増やし、表出したい言葉や出来事を振り返ることができることを目標とした。

③会話を想定したやり取りの素地を築き、会話のやり取りを学習する

・本児は自分の要求だけではなく、他者からの質問にも答えたいという思いが強くなったため、会話を想定したやり取りの素地を築くことを目標にした。

・実施期間

2017 年4月から 2018 年2月まで

・実施者

平木　智子

・実施者と対象児の関係

クラス担任

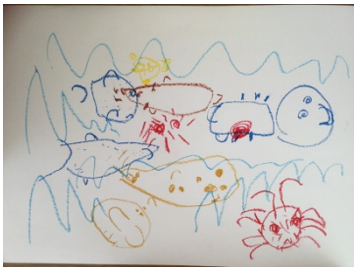
【活動内容と対象児の変化】

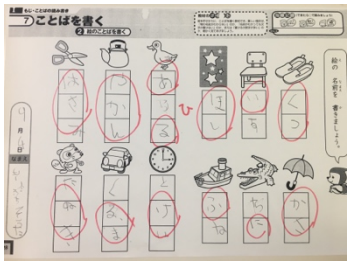
・対象児の事前の状況

（見分ける力）

・描きたい絵はイメージしているが、それを描くことができない。

・字に関して、枠からはみ出し、書き始めの位置がバラバラだった。

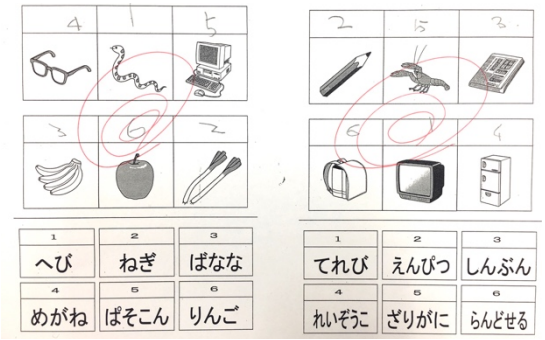




（語彙）

・身近な名詞については、選択肢の中から選び取ることができる。

・名詞以外の動詞や形容詞、気持ちなどは分からない。



（名詞のテスト）

（動詞のテスト）

（振り返り）

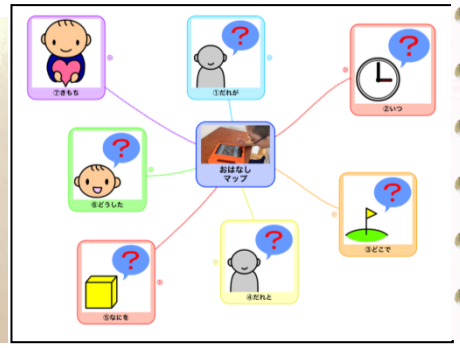
・一日の活動が校外学習や体育大会など一つの時には答えられるが、日々の学習のように様々な学習があるときには、それらを思い出すことが難しい。振り返りには、絵カードや写真が必要であった。

（会話のやり取り）

・自分からの要求や報告を絵カードや写真などを手がかりとして行うことができる。

・5W1Hなどの疑問詞に答えることができない。

・電話やLINE、筆談などのやり取りはできない。



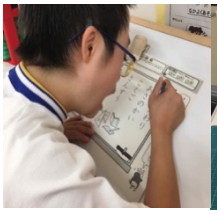
要求カード（音数付き）
文字を手がかりに、読んで
要求を伝えることができる

疑問詞カード
疑問詞に答えることができず
常に同じ答えを言っていた

LINE のやり取り
無意味語を録音し、
文字を羅列していた

・活動の具体的内容

（見分ける力）



〇斜視と遠視性乱視のある児童なので、学習時の目への負担を減らすため、書見台を作り、より学習に集中できる環境を作った。そして、トレーニングをする時と学習をする時で書見台を使い分けて指導した。

① 絵を描く

本児の絵が描きたいという願いを叶えるために「えかきうた」というアプリケーションを使い、絵を描く練習をした。これは音楽に合わせてお手本が絵を描いていくアプリケーションである。何度か見て、どんな音楽なのか、どんな順番で、どんな絵を描くのかを理解してから始めた。音楽に合わせ、見本の線をなぞっていくと、見本の線が消えて自分が描いた線だけが残る。歌が終わった後には、自分が描いた絵が動き、それを楽しみに行っていた。次第に、音楽のテンポに合わせて描くスピードも速くなっていき、少しずつイメージして描くことができ始めた。

② 位置の把握をする

平仮名が書けるようになったものの、枠からはみ出したり、書き始めの位置がバラバラだったりしていた。そこで、タングラムの学習を行った。iPadと連動しているので、正解すると色が変わり、楽しんで取り組むことができた。どの辺とくっついているのか、どの向きなのかを意識することで、少しずつ枠や書き始めの位置を意識して書くようになってきた。

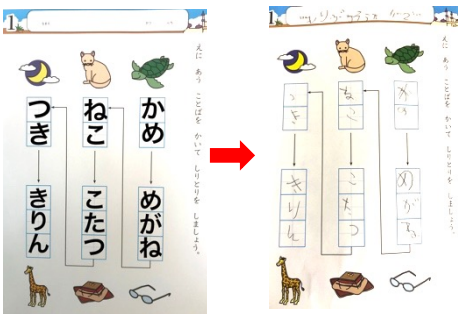
（語彙）

〇コミュニケーションを取るのに必要な語彙を増やす課題に取り組んだ。様々なアプリケーションを使用したが、構音障害もある児童であるため、構音訓練にもなる「ひらがなトレーニング」と「Phonto」をよく使用した。

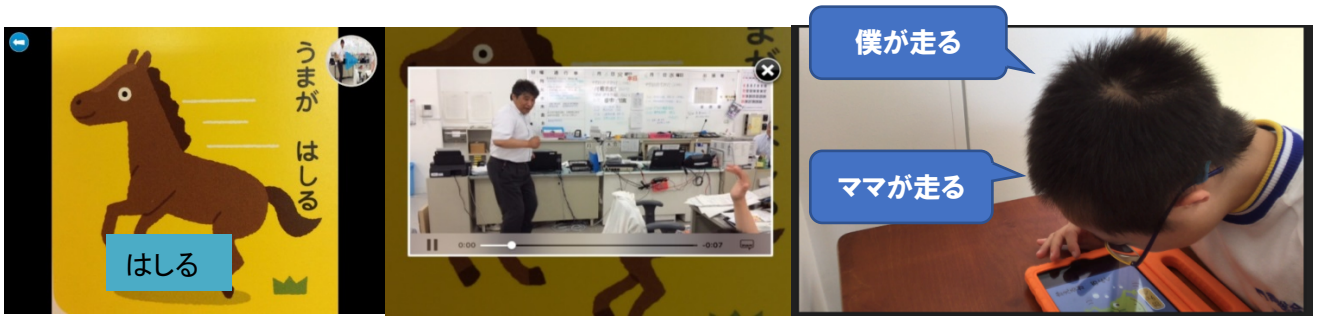
①「ひらがなトレーニング」では、文字の音数を確認しながら発音練習をしたり、しりとりをする問題で文字を想起するトレーニングをしたりした。本児はいくつの音で構成されているのかを理解することができずにいた。日頃から絵カードを見ながら、音を手打ちしていたが、このアプリケーションを使用することで、さらに視覚的にも音を意識することができるようになってきた。

しりとりをする問題では、いくつの音で、どの順番で構成されているのかを意識するトレーニングになった。今までしりとりをする時は一つ一つ書いて確かめながら行っていたが、このトレーニングを取り入れることで、想起する力が少しずつついてきて、2・3語のしりとりは、書かずにできるようになった。また、思い出せない時は聞くボタンを押すことで、音声を確認することができ、想起する手助けとなった。また、聞く力も高めつつ、少しずつ想起する力をつけていった。

②「Phonto」というアプリケーションは、写真に文字を入れることができるアプリケーションである。今までは文字チップやアプリケーションで語彙を増やし、定着したかの確認をプリント学習で行っていた。しかし、本児は戸惑い、また戻るということを繰り返すこともあった。本児は想起することが苦手なので、プリント学習に入る前に、この Phonto を使用するステップを取り入れた。このアプリケーションは、国語のような縦書き入力も可能である。文字入力をする時に予測変換機能を使用することができるので、不確かだった語彙も確認しながら学習を進めることができた。その後、プリント学習に入ると、定着するスピードも速くなり、たくさんプリントをしたいというようにもなってきた。



③週２回の自立活動の時間に教室で行った。動作語を増やす課題には、「Kids Flashcards maker」を使った。これは簡単に絵や写真に、音声や動画を組み合わせてフラッシュカードにすることができるアプリケーションである。本児は絵や写真を見ながら下にある音声で、文字と音を確認し、右上の動画で動きを関連づけて学んだ。動画を見た後は、教師と本児が交互に同じ動きをして、楽しく動作語に慣れ親しんだ。その後、主語を変えて表現するなど、バリエーションを増やして「走る」という動作語のイメージを反復した。



動画や音声を確認しながら、動作語を学習している様子

（会話のやり取り）

○想起しながら、会話のやり取りを身につける課題に取り組んだ。

疑問詞に答える練習を繰り返し、それぞれのパターンを学習している様子

①週２回、自立活動の時間に、写真を見ながら疑問詞に答える練習を行った。本児が、分からない時はヒントを出して、疑問詞に答えるパターンを学習した。そこで、iPadの写真を見ながら、疑問詞のカードケースから中にあるカードを手がかりとし、答える練習を繰り返し行った。その後、シンプルマインドプラスというアプリケーションを使い、写真を見ながら疑問詞に答えたり、ヒントの選択肢から選んで答えたりする練習を繰り返した。この学習を通して、授業中、教師からの問いかけにも応えられるようになってきた。

②6月から「LINE」を使用して、単語の送受信の練習を行った。教師が送られてきた文を読み上げ、本児が答える一問一答の練習を通してやり取りを練習した。絵カードや絵文字で自分の思いが相手に伝わることも知り、支援を受けながら楽しくやり取りをした。また、7月に入り、本児が自宅からもLINEをするようになり、伝わる楽しさを味わっていた。そこで、大人の支援なしにやり取りを行えるよう、やり取りで使用する言葉は、全て本児が知っている言葉を使うこととした。しかし、送られてきた文を指差しても、本児は答えることができず、教師が読み上げると、すぐに「水遊び」と答えることができた。その後、文を理解するには、音の支援が必要だと考え、読み上げ機能を使用したが、読み上げ機能は本児の手助けには、ならなかった。これは、本児にとって①読み上げ機能は区切りが短く、わかりにくいこと、②間を置いて読んだり、強調したりすることがないため、理解することができないからではないかと考えた。その後、スペースを空けて提示したり、単語ごとに段落をつけたりすると、正しく読んだり、理解したりすることができるようになった。このことから、文を区切ったり、言葉の中から単語を見つけたりする課題を行い、文として読んだり、意味を理解したりすることができるよう、課題に取り組んだ。

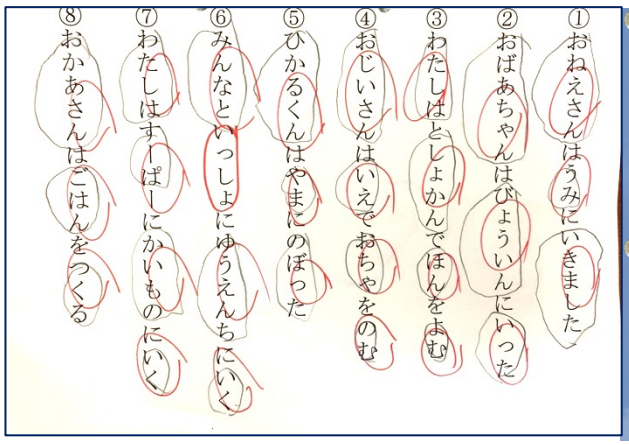
写真の撮り方やスタンプの送り方も学習した

文の分解

りんご を たべる

せんせい と あそぶ

「ひらがな」というアプリケーションを利用して、知っている果物や動物の中から語彙を見つけていく学習を始めた。次第に、答えるスピードも向上し、取り上げた話の理解も進んだ。そこで、書かれている文の中から知っている語彙を見つける課題に取り組んだ。最初は2語文から始め、多語文へと徐々に広げていった。文が長くなっても知っている語彙を見つけることが徐々にできるようになった。それに応じて、LINEを活用した応答も、文を読み上げなくても一人でやり取りができるようになってきた。


①おねえさんはうみにいきました
②おばあちゃんはびょういんにいった
③わたしはとしょかんでほんをよむ
④おじいさんはいえでおちゃをのむ
⑤ひかるくんはやまにのぼった
⑥みんなといっしょにゆうえんちにいく
⑦わたしはすーぱーにかいものにいく
⑧おかあさんはごはんをつくる

（出来事の振り返り）

◯想起力を伸ばすために、1日の活動写真の中から一番好きだった活動を選び、振り返りを行うようにした。この学習には「フォトメメズ」を使用した。その結果、写真をもとに振り返るだけでなく、50音表をもとにしたことを文で表現できるようになった。

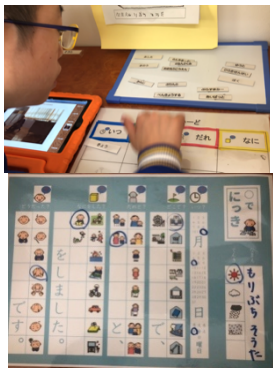
①本児が毎日（月～金）の帰りの準備をすませた後、教室で行った。一日の活動写真の中から本児が、一番好きだった活動を選び、振り返りをした。

1日の活動写真を撮り、振り返りをする学習を増やす

少しずつ言いたいことも増えてきた。6月は2語文での表出だったが、半年後には、「僕は生単でクリスマスツリーを作りました」と文を構成できるようになった。

半年後

振り返りグッズ



今は振り返りの文づくりもカードやグッズを使い、一人で文を完成させ、入力をすることができるようになりつつある。「視覚シンボルコミュニケーションおかわり」にある「〇で日記」は絵からイメージが湧きやすく、本児がよく使用した。

伝えたい体験の写真は188枚になった。今はこの日記を見せながら伝えたい人と話すことで、たくさんの体験を共有することができるようになった。

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

（見分ける力）

・図と地の弁別ができるようになったことで、見える範囲が増え、積極的に学習に取り組むようになったのではないか、また、プリント学習の際にも真上に文字チップを置いて書き写す練習を行なっていたが、文字チップがなくてもプリントに書いてある字を見て一人で学習を進めることができるようになった。このことから見分ける力がついてきていると考えられる。

・文字や絵を正しく理解できるようになったことで、スケジュールカードの提示を理解し、日常生活でも見通しをもち、落ち着いて行動できるようになった。

（語彙）

・名詞だけでなく動詞の理解も進み、文の合成と分解ができるようになったことで、プリント学習が一人でできるようになった。「一人でできた」という自信の積み重ねから「もっとしたい」という意欲の向上に繋がったのではないかと考える。

（会話のやり取り）

・語彙力が向上し、構音訓練も同時に行ったことにより伝えることができる言葉が増えた。そして、「伝えたい」「たくさん話したい」気持ちの高まりから積極的な表現行動へと繋がったのではないだろうか。

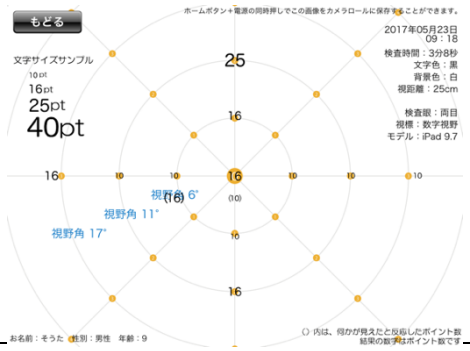
（出来事の振り返り）

・想起する力を高めたことで、伝えたいことを伝えられるようになったのではないか。

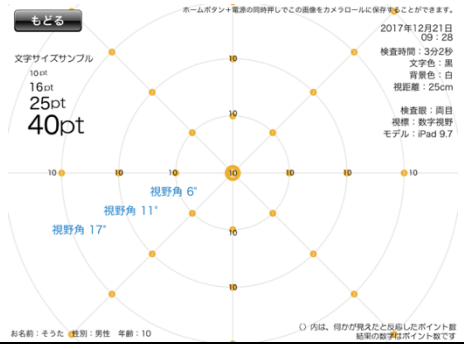
◯エビデンス

（見分ける力）

・5月には25ポイントや16ポイントの文字サイズでないと見えなかったものが、12月は全て10ポイントのサイズで見えるようになった。



日用視野測定



・細部を見て、イメージし、表現できるようになった。

半年後

（語彙）

・取り組んだプリント枚数は900枚になった。

（会話のやり取り）

・教師からの問いかけに対し、「いつ」という質問には的確に答えられるようになった。（学年教員の聞き取りより）

（出来事の振り返り）

・振り返りの文を入力する文字数も、入力速度もともに上がった。

6月（17文字）７．１秒／字　⇨　12月（23文字）１．８秒／字　約3．9倍

・田中ビネー知能検査の数値が2015年4月のものから2017年12月に行ったものでは、精神年齢が1歳9ヶ月、知能指数が8伸びた。

◯今後の課題

・単語であれば復唱することもできるようになってきたが、2語文となると知っている言葉であっても復唱することができない。動画や音声を聞いて復唱する練習を取り入れ、聞く力を高めていきたい。

・全ての気持ちを「頑張りました」と表現することがよく見られた。私自身、それぞれの場面で、本児と一緒に気持ちを表出する機会を多くもち、本児が気持ちの変化や様子に気づくように支援していきたい。

・この1年間の成長で、本児は「やればできる」という自信を深めてきた。この一年で体得したものを活かすことができるよう広がりを意識しながら、支援していきたい。